

フランス文学・語学専攻

【修了（博士学位取得）要件】

1. 指導教員の研究指導：3年以上（修了要件単位表 P.139に示す所定の単位を修得）
2. 博士学位申請論文の提出
〔提出要件〕
 - A. 博士学位申請論文提出予備資格取得
 - B. 専攻内予備審査合格
3. 論文審査および最終試験の合格、2外国語の認定合格

【研究指導計画】

指導教員は、以下の項目について研究指導を行う。

- ① 研究テーマの設定について、適切な助言を与え、「研究題目」の決定について指導を行い、これを1年次4月の所定の期日までに提出させる。
- ② 研究計画の策定について、適切な指導を行い、「研究計画書」を作成させて、これを1年次5月末日までに提出させる。
- ③ 研究テーマに即した書誌を作成するために必要な指導を行う。
- ④ 博士学位申請論文作成に不可欠な専門知識や技術を修得するための指導を行う。
- ⑤ 修士論文の成果やその後の研究成果を、各種の学会・研究会、研究誌等で発表させるなど適切な指導を行う。
- ⑥ 博士学位申請論文提出予備資格を得るための前提である「博士学位申請論文作成計画書」の作成のために必要な指導を行う。
- ⑦ 3年次までの研究活動によって、博士学位申請論文作成を指導し、所定の期日までに博士学位申請論文を提出させる。

【学位論文審査基準】

- ① 研究テーマの設定が明確かつ適切であり、そのテーマを扱う意義が説得的に説明されていること。
- ② 研究テーマに即し、質量共に十分な書誌の作成がなされていること。
- ③ 先行研究を幅広く読み、その成果を十分に消化して、自らの論文の中に組み込んでいること。
- ④ フランス語テキストや資料を深く正確に読み込み、理解できていること。
- ⑤ 引用文献の選定や、これを論の流れに組み込むやり方が適切であること。
- ⑥ 章立てが均衡のとれたものであり、全体の構成に寄与するものとなっていること。
- ⑦ 論旨が明快で、論理的な組み立てができていること。
- ⑧ 日本語あるいはフランス語の文章が、読む人を説得するに十分なレベルに達していること。
- ⑨ 先行研究には見られなかったような独自の知見を打ち出し、当該研究分野において新たな貢献をするものとなっていること。
- ⑩ 今後の研究の展望が明確に打ち出されていること。

次ページへ続く

【博士後期課程入学から博士学位申請論文提出までのプロセス】

学生	期日		問い合わせ・提出先	分科会・諸委員会
「研究題目」、および「指導教員」の届出	1年次	4月 ¹	教務課	
「研究計画書 ² 」の提出	1年次	5月末日	フランス文学科 合同研究室	分科会は、「研究計画書」に基づき当該学生に関する「指導委員会」（指導教員1名、副指導教員1名で構成）を組織。
2年次以降、準備が整い次第、「博士学位申請論文作成計画書」（今後の「展望 ³ 」に、紀要などに掲載済みの論文1点を添えたもの）を提出	2年次～	1月末日 ⁴	フランス文学科 合同研究室	指導委員会は2月末日までに「博士学位申請論文作成計画書」の審査を行い、承認または不承認を決定。分科会で結果を報告。同計画書が承認された学生は、「博士学位申請論文提出予備資格」を有する者と認定。
（「博士学位申請論文提出予備資格」を得た場合 ⁵ ）3年次以降、博士学位申請論文の執筆が終わり次第、同論文を届出	3年次～	6月末日 ⁶	指導教員	「指導委員会」は論文を審査し、提出を適当と認めた場合、分科会に「予備審査委員会」（「指導委員会」の委員に2名を加えた計4名で構成）の設置を要請。 ↓ 「予備審査委員会」は論文の審査を行い、その結果を分科会で報告。提出が妥当と判断された場合、教務課に博士学位申請論文提出者がある旨連絡する。
博士学位申請論文および申請書類一式を提出	3年次～	10月上旬 ⁷	教務課	

1 正確な期日は教務課で確認すること。

2 「研究題目」を敷衍したもの。A4で2枚程度。

3 A4で5枚程度。

4 5年目の1月末日を最終期日とする。

5 「博士学位申請論文提出予備資格」を得られなかった場合は、「博士学位申請論文作成計画書」を再提出すること。

6 6年目の6月30日を最終期日とする。

7 6年目の10月上旬を最終期日とする。

【その他の留意事項】

- 1) 博士学位申請論文（課程博士）は、博士後期課程入学後、在学通算6年以内（実質は通算5年+3ヶ月程度）に提出するものとする。なお、休学期間（3年を限度とする）は在学年数に含めない。
- 2) 3年以上在学して退学した場合は、入学時から起算して6年以内（休学期間も含める。実質は通算5年+3ヶ月程度）に再入学すれば、博士学位申請論文を提出することができる。
- 3) フランスでMaster2（またはDEA）を取得済みの学生は、Master2（またはDEA）取得論文に「展望」を添えることで「博士学位申請論文作成計画書」に代えることができる。
- 4) パリ第三大学との共同指導体制のもとで博士学位申請論文を準備する場合は、指導教員を通じて、提出書類に関する学科の見解を確認すること。

附記 上記の申し合わせは、2017年4月1日時点で博士後期課程に在籍する学生から適用される。